

改訂版

社会教育委員の手引き

〔実践編〕



令和 7 年 3 月

鳥取県社会教育委員連絡協議会

鳥取県教育委員会

目次

はじめに	1p
1. 地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方とは？ ～キーワードはウェルビーイング！～	2p
2. ウェルビーイングを実現するために社会教育委員が取り組むこと	3～7p
3. 県内の社会教育委員さん	8～10p
・布廣 覚 さん（三朝町）	
・城戸 宏子さん（岩美町）	
・ト蔵 久子さん（米子市）	
4. 社会教育委員の自主的な会合	11p
5. 今の自分の活動を振り返ってみましょう	12p
6. 鳥取県社会教育委員連絡協議会について	13p
おわりに	



社会教育委員による視察（大山青年の家 鳥取県）

《参考資料・参考文献等》

- 令和6年度社会教育委員研修会 講師 井上昌幸氏 講演資料
- 長野県社会教育委員の手引き
（令和4年12月 長野県社会教育委員連絡協議会）
- 社会教育委員活動のためのハンドブック—2022年版—
（令和4年5月 神奈川県社会教育委員連絡協議会）
- 社会教育委員の手引き～人づくり・地域づくりを目指して～改訂第4版
（平成30年4月 山梨県教育委員会）
- 改訂版 社会教育委員のための Q&A ー関係法規から読み解くー
（平成27年11月 一般財団法人全国社会教育委員連合）
- 改訂 社会教育法解説
（平成20年8月 一般財団法人全国社会教育委員連合）

はじめに

このたび、6年ぶりに『社会教育委員の手引〔実践編〕』を改訂いたしました。

この6年の間には、新型コロナウイルス感染拡大に伴う、人と人との接触回避や行動制限に見舞われ、人と人との対面機会が減少したほか、オンラインを活用したコミュニケーションツールも次第に馴染みあるものとなってきました。一方で、地方における人口減少は加速し続け、地域の衰退をいかに食い止めるかは喫緊の課題です。子どもたちをめぐる教育課題についても複雑化・困難化し、社会総がかりでの取組が求められています。「人生100年時代」における生涯学習のあり方も再考していかねばなりません。

そういった中で、「社会教育委員として何をすべきなのか」、「そもそも社会教育とは何なのか」といった悩みや疑問の解決に、本協議会としても真摯に向き合っていく必要があります。「委員の私に何ができるのだろうか」、「私には社会教育を担える力もない」などの声を耳にしますが、本手引には、これらに答えてくれるヒントが収録されているはずです。自分の趣味や子育て経験が地域の人たちに喜んでもらえるような形に発展したり、あるいは、委員が自主的に集まり話し合いをしたことで、委員の活動意欲が高められたなど、すぐにでも参考にしたり見習えることが見つけれられるのではないのでしょうか。

私たち社会教育委員には「学び」が欠かせません。県内外のさまざまな実践や知見を積極的に吸収したいところです。私たちの実践が社会課題の解決の一助となるよう、本手引が活用されることを願っています。

令和7年3月

鳥取県社会教育委員連絡協議会

会長 かわぐち ゆみこ 川口 有美子

1. 地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方とは？ ～キーワードはウェルビーイング！～

令和5年6月に第4期教育振興基本計画が閣議決定されました。この計画は、将来の予測が困難な時代において、教育政策の進むべき方向性を示す総合計画となっており、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイング（※）の向上」という2つの総括的な基本方針・コンセプトを掲げています。この実現に必要な1つの目標として、「地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進」があげられています。

※ ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

多様な個人がそれぞれの幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

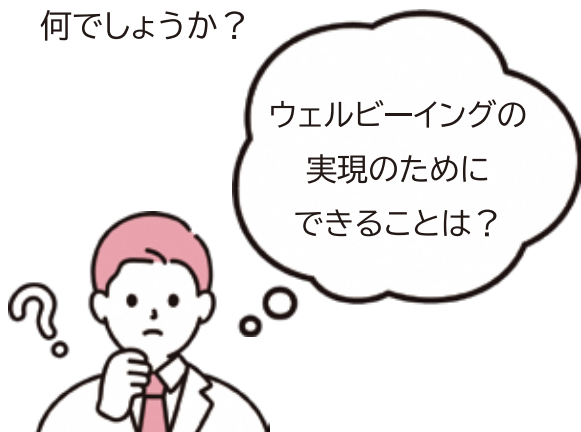
（文部科学省ホームページより）

「学び」を通じて人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し、協力し合える関係づくりの土壌を耕していくことで形成される人々の関係

持続的な地域コミュニティの基盤

さらに、令和6年6月には、中央教育審議会において文部科学大臣から「地域コミュニティの基盤を支える今後の社会教育の在り方と推進方策について」の諮問が行われました。

社会教育の在り方を改めて問い直されている中、社会教育委員が取り組むべきことは何でしょうか？



- ・ 地域と学校の連携のために・・・
- ・ 社会教育の担い手の育成をどうしよう？
- ・ 「つながり」や「かかわり」を作るために？
- ・ 誰もが学びやすい環境を整えよう！

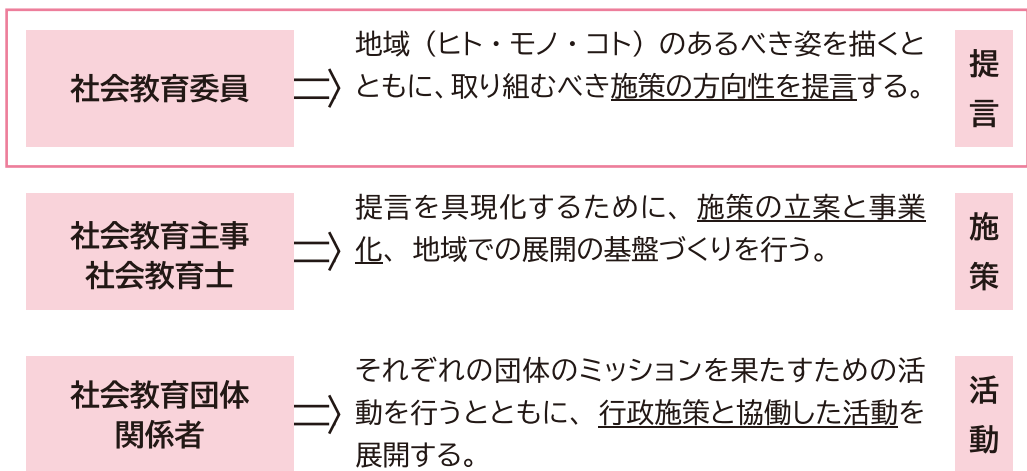
2. ウェルビーイングを実現するために 社会教育委員が取り組むこと

令和6年度鳥取県社会教育委員研修会では、講師として栃木県立真岡工業高等学校 校長 井上 昌幸 先生（いのうえ まさゆき（元）文部科学省国立教育政策研究所社会教育実践研究センター専門調査員・社会教育調査官）にお越しいただき、講義・演習をとおして、ウェルビーイングを実現するために、これから社会教育委員が取り組むことについて考えました。

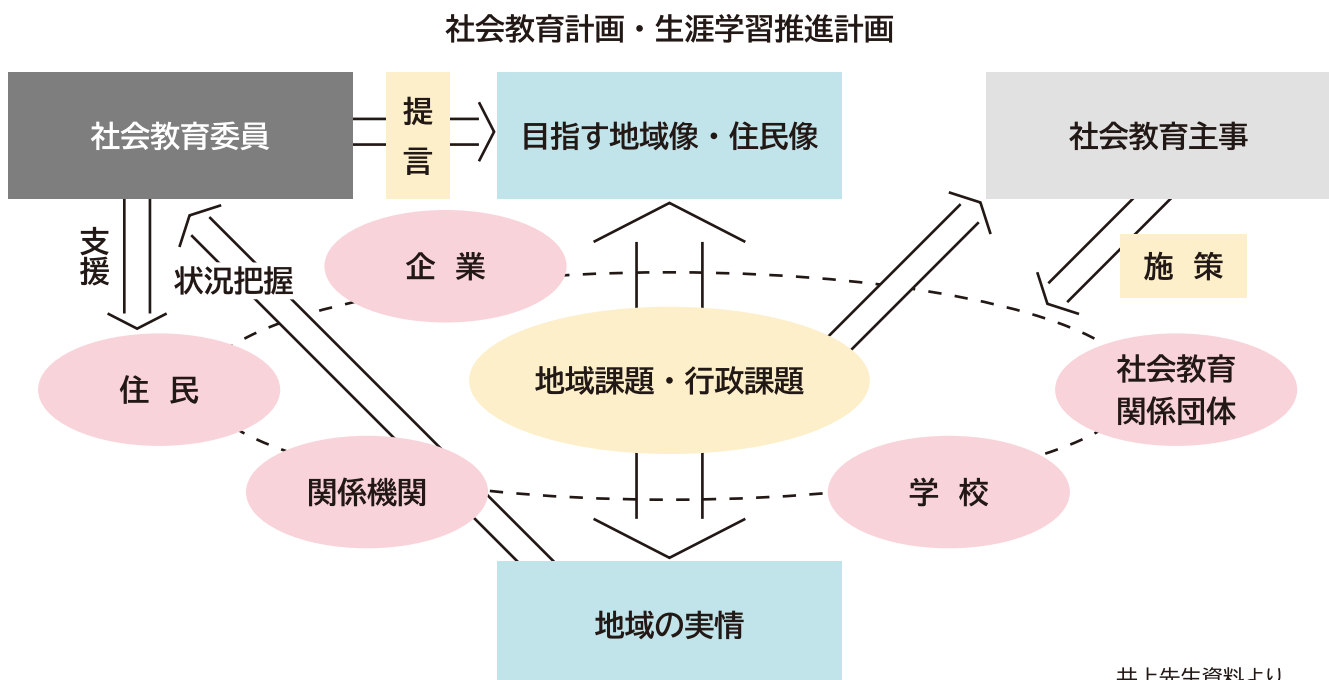
① 社会教育委員の役割



井上昌幸先生



社会教育に関わる関係者が、それぞれの役割を正しく理解し、「地域の活性化」に向けて、地域課題解決のための取組を進めていくことが必要となります。



井上先生資料より

② 社会教育委員としての活動状況は？

次に、社会教育委員会議の状況について、チェックリストを用いて確認しましょう。

あなたの社会教育委員会議の状況

次の①～⑮について、当てはまる場合は右の空欄に○印をつけてください。

A, B, Cそれぞれの項目で、一番○が多かったところがあなたの会議のタイプです。

A タイプ	①教育委員会からの諮問を受け、答申や建議を行うために議論している。	
	②全体会議の他、部会や小委員会を作って詳細に審議が進められている。	
	③審議事項に関する資料は事前送付され、発言の準備をした上で出席できる。	
	④委員同士が自主的に集まって話し合いを行う場合もある。	
	⑤委員の提言が行政の施策として実現しているものが多い。	
B タイプ	⑥諮問は受けていないが、政策提言のために審議を行っている。	
	⑦年間3回以上の会議を開催し、審議を行っている。	
	⑧審議事項のテーマ（議題）は事前に連絡があるが、関連情報の提供は無い。	
	⑨委員のメンバーは団体の役職にとらわれず、熱意のある方が選任されている。	
	⑩委員の提言の一部は行政の施策に生かされている。	
C タイプ	⑪年間事業計画の承認など報告事項に近いものが主な議題である。	
	⑫年間1～2回の会議を開催し、審議を行っている。	
	⑬審議内容は当日会場で資料を見るまで分からない。	
	⑭委員は役職等で機械的に選出された方が多く、熱意がある方ばかりとは限らない。	
	⑮会議の結果は行政施策に反映されているのかわからない。	

⇒ ○の数が一番多かったところがあなたの自治体のタイプです。

Aタイプ

すばらしい取組と運営です！行政の担当者とともに、良い答申を出してください！！

Bタイプ

前向きに取り組まれていると思います。ただ、もう一歩できることがあると思います！！

Cタイプ

運営に改善の余地が見られます。行政の担当者とともに、改善を図っていきましょう！！

Aタイプの会議にしていくためには、事務局が作成した資料について「いいですか？」「いいですよ！」という連絡・報告の会議からの転換が必要となります。

連絡・報告タイプからの転換に向けたポイント

- ① 事務局が事前に資料配布をする。
- ② 社会教育委員が資料に目を通しておく。
→ 会議において、事務局からの説明の時間を短くできる。
- ③ 事前に資料を確認することで生み出した時間を使って、課題の解決方を話し合う。



③ グループワーク

自身の社会教育委員会議の状況について確認した後は、チェックリストからわかった会議運営の在り方や地域の状況・連携の在り方など、課題と感じていることを書き出します。



続いて、出てきた課題を改善・解決するために社会教育委員としてできることを書き出し、話し合います。



社会教育委員さんの声

「社会教育委員として課題と感じていること」



社会教育委員及び会議について

- 委員同士のつながりが少ない。
- 社会教育委員の自覚がないままの者もいる。
- 社会教育委員が地域の課題を共有できていない。
- 年に2～3回の会議では話し合いが深まらない。
- 会議で議論を深めたいが、時間が足りない。
- 事務局からの報告・事業説明があり、それに質問して答える会になっていて、施策についての意見となっていない。
- 委員が機械的な選出になっている。
- 取り扱うテーマが幅広すぎて、大変（資料膨大）

事務局（行政）との連携等について

- 行政も人出不足で手いっぱい。
- 行政職員の異動が2～3年であり、連携がとりづらい。

地域について

- 誰がキーマンとなるかがわかっていない。
- 地域づくりのために動いている人は限られており、広がりにかける。
- 住民が社会教育委員の存在を知らない。
- 地域の実態把握ができていない。
- 話すだけでなく、知りたい情報を得るために地域に出向く必要がある。
- 社会教育施設の実態把握ができてない。
- 各団体の連携がうまく機能していない。

日頃、感じること

- 高齢化により地域活性に対する意欲が減退している。
- 提言しようと思ったことがなかった。
- コロナ禍以降、つながりが希薄になっている。



社会教育委員は、地域住民と行政との間に入って、自分のまちの地域課題を把握し、住民の声を行政に届けるという役割を担っています。社会教育委員の会議としてだけでなく、個々の委員としても意見を述べたり、活動したりすることができます。

「課題解決に向けて、今後取り組みたいこと」で出た声が、まさに解決への一歩となります。いきなり、どれもこれもは難しいので、できることから始めることが大切です。

「課題解決に向けて、今後取り組みたいこと」

- ・まずは、社会教育委員が楽しんで地域活動を行う！
- ・子どもも大人も楽しめる事業作り！
- ・事務局がない場でも委員が集まるようにする。
 - 懇親会やランチミーティングをしてもいいな。
 - 委員同士の話し合いの場を作り、つながりを深めることで、いろいろな議論につながる。
 - IT ツールを活用して委員同士でコミュニケーションを図る。
- ・他市町村の社会教育委員との交流を！
- ・教育委員と社会教育委員の懇親会。
- ・広報誌やケーブルテレビを使って、社会教育委員の知名度を上げる。（社会教育委員の名刺や名札がある町もある）
- ・社会教育主事をその気にさせる！やる気にさせる！
- ・委員がもっと自信を持って提言をしたり、調査・研究を行って答申につなげていけるとよい！
- ・コミュニティ・スクールの取組を地域づくりに生かすことができれば・・・
- ・「地域の人が先生に！」「恐れずにやってみる！」
- ・行政からの報告書を社会教育委員が責任をもってしっかり読む。
- ・まずは、自分自身の学びを止めないことが大切！
- ・社会教育主事講習を受講し、委員の質を高める。
- ・待っていてもダメなので、自ら動く！
- ・社会教育委員の部会を作って活動してはどうだろうか。



井上先生から「ポイント」

- ・会議の運営については社会教育委員と行政職員が一緒になって進めていく。
- ・社会教育委員も入れ替わりがあるので、第1回の会議の際には、「社会教育委員の役割」「何を話し合うのか」を明確にする（本冊子等を使って）。
- ・社会教育委員の思いを社会教育主事に伝える。

上記の「課題解決に向けて、今後取り組みたいこと」にもあるように、日頃から

- ① 行政担当者と意思疎通を図っておくこと。
- ② 社会教育委員同士のネットワークを広げ、互いに情報交換をすること。
- ③ 地域の行事や活動に積極的に向かい、地域の実態を知り、住民の声に耳を傾けるなど、日頃からアンテナを高くはっておくこと。

の3点を心がけ、担当者、社会教育委員同士、また学校や地域の団体等としっかりとつながることで具体的な活動へとつながります。

3. 県内の社会教育委員さん

ぬのひろ さとる

布廣 覚 さん（三朝町）

地域の子どもは地域で育てる



- 社会教育とのあいを教えてください。

社会人として働き始めたころに地元の青年団に入り、活動をしてきました。その後、三朝町教育委員会事務局生涯学習課長となり、行政の立場から社会教育の推進に携わってきました。

退職後には、社会教育委員となり、地域でのあいさつ運動などに取り組んでいます。

- 三朝町の特色あるイベントなどはありますか？

子どもたちの成長を地域の大人が支えていけるようにと、「みささ町かがやく子どもフェスティバル」を行っています。このフェスティバルでは、子どもたちに多くの体験活動に参加してもらおうと、三朝町内の様々な団体に協力してもらって開催しています。三朝町外からも鳥取短期大学の学生ボランティアに参加してもらいました。このフェスティバルをとおして、子どもたちと地域の大人たちが関わる機会を創出し、地域全体で子どもたちを育てる取り組みとなればと思います。

- 「社会教育委員」として意識していることは何ですか？

最初に社会教育委員となったとき、自分は何をすればいいのかと考えましたが、まずは、地域で開催される行事やイベントに積極的に参加しました。コロナ禍で地域のイベントがどんどんなくなってしまい、寂しい気持ちになりましたが、少しずつ社会教育活動がもとに戻ってきていると感じるので、これからも地域の活動に参加していきたいと思っています。

- 令和5年度には、国の社会教育功労者表彰を受賞されました。今後やってみたいことやこれからも続けていきたいことがあれば教えてください。

通学合宿やキャンプなど、学校や家ではできない集団での体験活動を、社会教育の場で子どもたちに提供できればと思っています。個が重んじられる時代ですが、自分のことと同じように相手も大切にし、しっかりコミュニケーションがとれる子どもたちとなるような活動ができればいいですね。

これからも積極的に地域に出かけ、地域の実情を知るように心がけたいです。目に見えない形でも地域に関わるようにしていこうと思っています。



きど ひろこ 城戸 宏子 さん（岩美町） 岩美町への郷土愛を育てる



- 社会教育とののであいや関わりを教えてください。

学校教員として働いた後、中央公民館長になり、社会教育に関するイベントに参加するようになりました。社会教育委員に任命されてからも、自分の趣味を地域で披露する中で、少しずつ仲間が増えていきました。活動が自分だけの楽しみに終わらず、地域に還元できるようにしたいと思っています。

- これまでにどのような活動をしてこられましたか？

「ハーモニカフレンズ」の活動では、依頼を受けて、学校や病院・福祉施設といった場でハーモニカ演奏をしています。「布の絵本ちくちくチョッキン」では、オリジナルの布絵本を作成したり、「岩美のみんなを語る会」の活動では、地域の人に聞き取りをして、令和元年に岩美町の47の言い伝えを1冊の本にしました。鳥取県で開催された令和6年のねんりんピックでは、ブース出展をしましたよ。



布絵本の実物

岩美町は高齢者率が高く、移動が難しい方が多いため、町のケーブルテレビで布の絵本の語りを放送しています。

- 活動をするうえで、社会教育委員として意識していることはありますか？

地域に関心をもってもらいたい・地域を元気にしたいという思いでいます。また、私は常に「社会教育委員の役割とは何か？」を自分に言い聞かせながら活動するようにしています。しかし、地域に「社会教育委員」があまり知られていないのが残念です。

岩美町をよくするために、公民館職員や教育委員会職員との意見交換をする際には、個人としてではなく、「社会教育委員」として提案をするよう心がけています。

- 社会教育の楽しさを教えてください。

布の絵本を子どもたちに読み語りをすると、とても喜んでくれます。子どもたちからはたくさんのエネルギーをもらいますね。また、地域の人たちが知らなかったことを広められたと思うと、これからも続けようと感じます。ハーモニカの音色を聞いて、活動に参加したいと自主的に加わってくれる方もいて、やりがいを感じます。



ハーモニカフレンズの活動の様子

ぼくら ひさこ
ト蔵 久子 さん (米子市)

やらいや、いっしょに！「この指とまれ」



- 社会教育とのあいを教えてください。

自分の子どもが保育園のとき保護者会の会長を務めたのが始まりだと思います。その後も小学校の PTA 活動や子ども会育成会の会長をする中で、地域と密着する活動をする事となりました。そうした中で、子どもを対象とした活動をしていながら、自分のやれること・やってみたいことが社会教育・家庭教育なんだとわかっていきました。

- 普段はどのような活動をされていますか？

米子市家庭教育支援チームリーダーとして、子育て親育ち講座を開催しています。また、市内の子育て支援センター・子育てサークル・児童文化センター等を訪問し、子育てに関する情報収集や提供、相談や遊びの支援を行っています。保護者から「こんなことできませんか？」と相談された場合は、できる方法を考えています。

さまざまな活動をすることで、人との出会いが増えていきました。あれがしたい・これがしたいと相談すると、「この指とまれでやればいいが」と言ってくれる人もいて、どんどんのめりこんでいくようになりました。

- 活動をするうえで、社会教育委員として気をつけていることは何ですか？また、社会教育委員の会議開催に向けて、事務局との連携はどうしていますか？

自分が社会教育委員として委嘱を受けた背景を考え、「この活動は社会教育なのか」ということを考えるようにしています。また、参加できる活動には出るようにし、「社会教育委員」とは何かを伝えるようにしています。

会議に向けては、私が事務局へ行ったり、時には電話したりと事務局とこまめに打合せをしています。会議にこだわらず、普段からどんな小さなことでもコミュニケーションをとろうと思っていますし、担当者と話すだけでなく、担当課と話をすることを意識しています。

- 今、力を入れていること、また、これから取り組みたいことを教えてください。

委員個々の活動を尊重しながら、米子市社会教育委員として提言を出したいと考えています。

自分がこれまでやってきたことを振り返りながら、参加してくれた保護者に対しての感謝の気持ちを伝えることを大切にしています。これからも「ありがとう」「おたがいさまです」の関係性を続けていきたいと思っています。そして、これからもできる限り多くの活動に参加したいです！



子育て親育ち講座
タムタムスクール講座の様子

4. 社会教育委員の自主的な会合

米子市では、定例の社会教育委員の会議とは別に、社会教育委員が自主的に集まって話し合いをする機会を設けることとなったということで、第1回目(令和6年12月)の様子を取材しました。

経緯（米子市社会教育委員の会 ト蔵会長より）

米子市社会教育委員の会だけでは、委員それぞれの活動の背景が見えづらいと感じていました。そのため社会教育委員だけで集まりたいという意見は数年前から出ていましたが、これまでできていませんでした。この度、委員のグループ LINE を作り、都合の良い日程を調整することで、このような場を設けることができ、約束を果たすことができました。

委員の自主的な会合では、普段思っていることが話しやすいし、一人ずつの活動も話しやすいと思います。そうすることでお互いを理解し、尊重し合って委員が繋がっていける社会教育委員の会になっていくのではないかと考えています。

今回は、1回目の集まりということで、委員それぞれがどのような活動をしているのかを紹介しました。その中で、日ごろ抱えている社会教育委員としての悩みを出し合ったり、お互いの活動をより深く知るために質問をしたりしました。

- ・自分に影響を与えた人
- ・大切にしている言葉
- ・忘れられない出来事
- ・今後やってみたいこと

これまでの会議では話すことのない内容をじっくりと話し合うこととて、各委員の思いや強みを共有することができました。



会議の様子

また、お仕事の都合で参加することのできなかつた委員へは、話し合いの様子を記録に残し、LINE 等で共有することとなりました。

【感想】

- ・お互いがどんな活動をしているのかが分かり、次の会議での発言の意図が理解できると思う。
- ・個々のつながりができればお互いの活動に参加できる！
- ・今日がスタート！次も集まってつながりを深めたい！



5. 今の自分の活動を振り返ってみましょう



社会教育委員の役割（基礎編4ページ参照）は大きく以下の表の3種類。社会教育委員の役割を果たすために具体的にどんな活動をしているのか、またこれからどんな活動をしていくのか、下の表を使って考えてみましょう。

社会教育委員の役割		活動の内容
1	自分のまちの社会教育の実情を知り、地域住民と行政との間に立って、住民の声を行政に反映する。	(例) 公民館を利用した教室や講座・研修会に参加し、住民の悩みや地域の課題を把握している。
2	一人ひとりが独立した立場で、研究調査したり教育委員会で意見を述べたりすることができる。	(例) 地域の行事に積極的に参加し、〇〇についてのアンケートをとり、それをまとめて会議で報告している。
3	社会教育委員の会議としての職務。 ・教育委員会への提言 ・調査研究、視察等	(例) 事務局から事前に配布された会議資料を読み込み、町がより良くなるための方策を考えて会議で発言している。

6. 鳥取県社会教育委員連絡協議会について

社会教育委員の手引き(基礎編)8ページに記載しています「鳥取県社会教育委員連絡協議会」では、理事会・総会の開催や鳥取県社会教育委員連絡協議会表彰、啓発資料の購入・配布などの事業や活動を行っています。

総会には、県市町村の社会教育委員さんから選出された代議員が出席し（多くは県市町村社会教育委員の会長）、理事会には代議員の中から理事を選出して開催しています。



鳥取県社会教育委員連絡協議会表彰



理事会の様子



総会の様子

総会の中では、社会教育委員の研修会も行われ、令和6年度は「はまだ協働学舎ファンタス」副代表 おおじもと ゆか 大地本 由佳 氏に「地域と若者をつなぐために」のテーマで事例発表をしていただきました。



研修会の様子



大地本 由佳 氏

■ 大地本 氏が大切にしていること

子どもでも大人でも「自分らしく地域社会に関わる」こと！

そのために、若者との対話をしながら、興味関心を捉え、地域の情報をたくさん共有する。そして、若者が求めていること・興味関心と地域をマッチング！

若者が地域に飛び出すために、大人がすべきこと

- ① ゴールを共に描くために学び続ける
- ② 関わってみたくなる魅力ある「人」であられる「地域」へ
- ③ 地域のための「若者」ではなく、「若者」のための「地域」

おわりに

実践編では、令和6年度鳥取県社会教育委員研修会の様子を紹介しました。基礎編と併せてご活用いただきますようお願いします。今後も引き続き、県内の社会教育委員さんの活動をお伝えしていきたいと思えます。



社会教育委員会議（鳥取県）



社会教育委員会議（倉吉市）



社会教育委員会議（大山町）



社会教育委員会議（三朝町）

<問合せ先>

鳥取県教育委員会事務局社会教育課

電話 0857-26-7520 ファクシミリ 0857-26-8175

E-mail shakaikyoubu@pref.tottori.lg.jp